

令和7年度 嘉数小学校の取り組み

1 研究主題

英語を「話すこと」「聞くこと」に自信を持つ児童の育成
～「やりとり」を重視した授業デザインを通して～

2 研究主題設定の理由

新学習指導要領では、外国語活動を通じて児童が「聞くこと」「話すこと」に慣れ、コミュニケーション能力の基礎を養うことが求められている。特に低学年からの活動では、英語を楽しみながら積極的に使う経験を重ね、自信を持つことが重要となる。低学年で培った資質・能力を基に高学年においては、生きた英語に触れ、言語習得のモチベーションを高めるとともに、異文化への興味を深める機会も重要である。本市は英語教育特区であることから、低学年における外国語活動の実施が可能であり、さらに、ALTの配置により、ALTと学級担任が連携した、コミュニケーションモデルを示す授業が実施できる。

そこで、本校では、ALTを効果的に活用しながら、「やりとり」を重視した授業の設計・実践により、児童が段階的に言語運用能力を伸ばし、英語を使うことに楽しさと自信を感じられる環境づくりを目指す。

3 主な研究内容

(1) 学年・領域

1 学年～4 学年：外国語活動

5 学年・6 学年：外国語

(2) 研究主任と組織

研究主任：玉城 佑 英語・国際理解担当：浅井 千苗

ALT：安里 綾乃、山村 エレナ ※部会で指導方針を確認、学年に伝達する。

(3) 年間研究計画

授業回数：1 学年～4 学年は週1回、5・6 学年は週2回

授業方法：・単元を通して「やりとり」を意識したスモールステップ構成の授業を実施する。

[例：簡単な対話活動、聞いて応答する活動、段階的な発話練習 (show & tell)、ロールプレイ、ペアワーク、グループワーク等]

・TT指導體制において、学級担任 (HRT) が主導 (T1)、ALTが支援 (T2) の役割を担う。ミーティングを通して児童の意欲を引き出す授業を創っていく。

見取り：交流・発表・活動場面の観察、ワークシート、アプリ等での作品。

児童アンケート、保護者アンケートに英語授業に関する項目を入れて実施。

(4) 指導方針

発達段階に応じた系統的な指導により、表現力の向上を図る

- ① 授業の始めに、small talk を実施する。ALT と HRT の対話から、児童が「やりとり」のイメージを持てるようにする。
- ② 授業内に多様な「やりとり」を取り入れ、実践的なコミュニケーション能力向上を図る。
- ③ 相手の目を見る、相づちを打つ、表情やジェスチャーを交える等、コミュニケーションの基本姿勢 (非言語表現を含む) についても指導を行う。
- ④ 高学年においては、中学校への円滑な接続を意識し「読むこと」「書くこと」への意欲向上および慣れ親しみを図る。
- ⑤ 宜野湾市全体で実施している英会話形成評価や英検 Jr. に取り組み、これらの結果を指導に生かしていく。

5 各学年の活動の様子

【1年生】

活動名「果物の言い方を知ろう」

- ・果物のおもちゃを触って、英語で答えるゲーム！
- ・分からない場合は、他の児童がを英語で色などのヒントを教えてあげました。



活動名「色の言い方を知ろう」

- ・好きな色を発表して、クラスの人気カラー調べ。
- ・みんなの前で緊張しながらも、一人ずつ好きな色を発表することができました！



活動名「色の言い方を知ろう」

- ・色カードを交換しあって好きな色を伝え合う。
- ・I like (blue).と繰り返し使うことで表現に慣れ親しむことができました！

【2年生】

英語の時間以外にも英語で読み聞かせをして、外国の文化に触れる時間が増えました。



教師も楽器を使って英語の曲を弾きながら、みんなで名曲を歌いました。



1年生で学んだ英単語を使って、「やりとり」をたくさんしました。
 “What day is it today?”
 “It’s Thursday.”



体を動かしながら英語に慣れ、記憶力をアップさせました。タブレットだけではなく、さまざまな道具を利用したゲームで、たくさんの英語に触れました。

【3年】



発表者：自分で作った問題を出します。

“What’s this?”

回答者：ヒントを引き出します。

“Hint please.”

発表者：“Hint 1. It’s animal. Hint 2. It’s long.”

回答者：“Is it a snake?”

発表者：“No. Close. Hint 3. It’s yellow and brown.”

回答者：“Is it a giraffe?”

発表者：“Yes. That’s right.”

活動名「果物の言い方を知ろう」

- ・果物のおもちゃを触って、英語で答えるゲーム！
- ・分からない場合は、他の児童が英語で色などのヒントを教えてあげました。





☆スモールステップで上達していきます☆
英語コミュニケーションへのハードルを下げる
ために、基本会話を全体で押さえた後、ペア
練習をしてから色々な友達と交流します。

慣れてくると、前での発表にも堂々と TRY !

【4年】

Topic: What do you want?

第1時: 果物や野菜の英語を復習するアクティビティを
行いました。

A: Hello. What do you want?

B: I want pineapples, strawberry ice cream
and chocolate mint ice cream.

A: Here you are.

B: Thank you.



第2時: 買い物ごっこを通して、店員とお客さ
んの立場になりきって会話をしました。

A: What do you want?

B: I want watermelons, grapes and
cucumbers, please.

A: Here you are.

B: Thank you.





他にも、「ピザ屋さん」のロールプレイも行いました。
 児童が料理人とお客さんになりにきて、英語を使って注文したり
 作ったりしました。
 ★毎時間少しずつ学ぶ内容を追加していきながら、英会話を練
 習していきました。

A: What do you want?
 B: I want tomatoes, please.
 A: How many?
 B: Five, please.
 A: What do you want?
 B: I want sausages, please.
 A: How many?
 B: Two, please.
 A: Here you are.
 B: Thank you.

【5年】

Lesson4: I can draw pictures well.

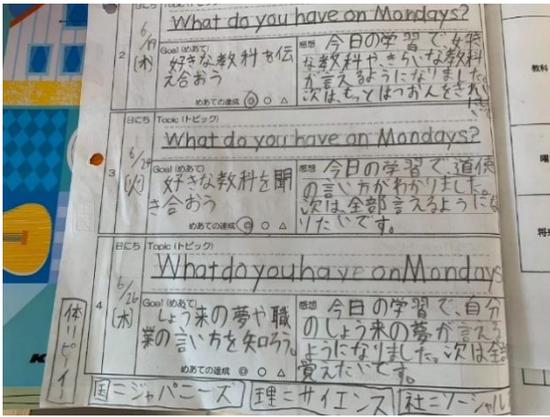
「自分のできることやできないことを
 発表しよう」

- ・初めはグループ内で練習をし、慣れ
 て自信がついてきたら、全体の前で
 発表することができました。

「できるかどうか聞きあおう」

- ・ゲームを通して、難読漢字を読める
 かどうか進んで聞きあうことができ
 ました。
- ・ Can you read it?を繰り返し使やり
 とりを通して、Can you~?の表現に
 慣れることができました。



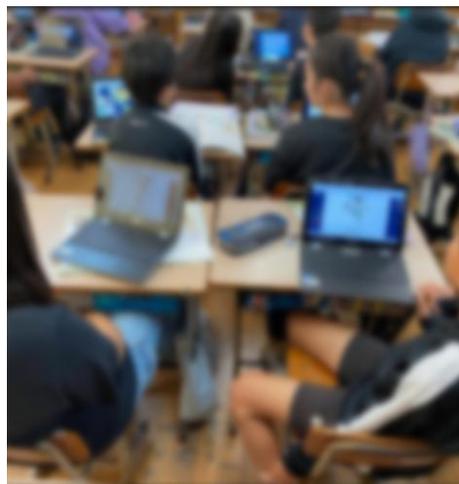


Lesson3: What do you have on Mondays?

「理想の時間割を発表しよう」

- ・クラスの時間割や、自分の理想の時間割を作成して発表しました。
- ・教科や職業の言い方にも触れ、好きな時間割や将来の夢についても話すことができました。
- ・毎時間のふりかえり活動を通して、自分の成長を実感できるようにしています！

【6年】



☆6年間で学んだ英語を使って毎時間やり取りをしてきました☆

「やり取り」のステップアップ

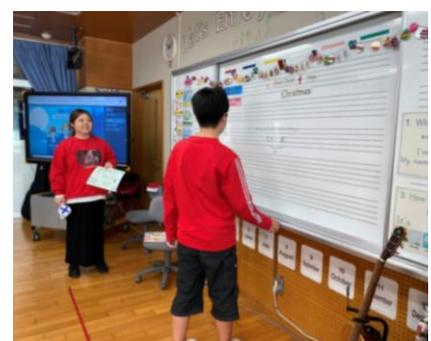
- ①TT (HRT&ALT) のスモールトーク (デモンストレーション) を見る。
- ②まずはペアで、画像を見せながら練習する。
- ③言えるようになったら、別の友達と多く会話をする。
- ④グループにスライドを見せながら発表をする。
- ⑤HRT&ALTに発表をしたり、会話を通じたスピーキングテストを行う。

学校職員の協力を得て、クイズやゲームを実施し、実生活に沿ったより楽しい授業ができました。



積極的に英語の授業に参加する児童が多い嘉数小学校です♪

クリスマスの時期には、ドレスコードを赤・緑・白・黒に決めて登校。楽しむ環境づくりも工夫しました！



6 成果と課題・対応策（○成果 △課題）

低学年

○英語の「音」の聞き取りを柔軟にできる年頃に、英語の歌やチャンツ、ALTの正しい発音に触れることで、語彙を効果的に増やすことができた。

○歌やダンス、ゲーム等のアクティビティを通じ、児童が主体的に楽しく学習に取り組む姿が見られた。

△動画を使用時には、フラッシュカードとイラストを揃えたほうが児童が理解しやすい。

△ゲームに熱中すると日本語になりやすいため、ジェスチャーを交えた英語表現の定着を図りたい。

中学年

○事前のミーティングにより授業改善を図り、発達段階に即した活動を展開したことで、児童の学習意欲を高めることができた。

○ALTによるきめ細かな対応により、児童が安心して楽しめる環境作りができた。

○ワークシートやふりかえりシートも活用し、個々の理解度に応じた効果的な指導ができた。

○Teacher: “Eyes on me.” Students: “Eyes on you.”の掛け声が定着し、学習の切り替えや集中力の維持がスムーズになった。

○新学期当初、英語に苦手意識を持っていた子も、前向きに授業に参加できるようになった。

△習熟度の個人差への対応が今後の課題である。

高学年

○英語ミーティングでは、単元を通して児童に身につけさせたい力、子供たちの実態に即した授業の進め方などを共有した。HRTとALTで役割分担を明確にすることで、円滑な授業実践ができた。

○4線を意識した文字の書き取りにおいて、正確に書けるようになってきた。

○単元末のゴールに向かい、ターゲットフレーズを段階的に指導したことで、自信をもってプレゼンテーションを行う児童が増えた。そこに向けての計画や準備など、ALTの多大なサポートと指導が大きな支えとなっていた。

△技能の個人差に応じた、継続的なフォローアップが必要である。

△1時間の学習、もしくは単元全体の中で、4技能（聞く・話す・読む・書く）のバランス、特に苦手意識が見られる「読む・書く」の指導において、反復練習や視覚情報の提示を強化していく必要がある。英語の表記だけで読んだり、短いフレーズを繰り返し書いたりすることを意識して行いたい。

学校評価アンケート結果より

● 児童アンケート

「1年生から英語を勉強することは、自分のためになっている。」

⇒93%が「肯定的な回答（そう思う・とてもそう思う）」

● 保護者アンケート

「1年生から英語を勉強することは、子供の英語学習への興味を高めることに役立っている」

⇒99%が「肯定的な回答（そう思う・とてもそう思う）」

学校外部評価アンケート結果より

○将来グローバルな社会で生きていかなければならない子供たちなので、小さい時からの「活用できる英語」は特に必要だと思う（どの国も普通に取り入れ活用している現状がある）。

○発達段階に配慮しながら、英語に親しむ学びが今後さらに充実していくことに期待します。

○ホームステイや外国の子供たちと交流会などを取り入れ、英語の必要性和楽しさを体感してほしい。